



icardの活用

教室で大型モニタが使える、icardの本格利用が始まり半年になりました。従来のICT教材の自作では、制作時間、運用の手間、利用の実際の修正の手間などが大きく、日常利用には限界がありました。icardの利用によって、ほぼ毎回の授業、研究のプレゼンテーション、生徒の発表で利用できるようになりました。

初めから

授業から利用

教材の素材の収集

教科書、インターネットなどから教材として利用したい素材を集めます。



スクリーンショットを画像ファイルで保存 (JPEG、または BMP 形式) ※これらのファイルは、適切な名前の素材フォルダをつくって保存します。
動画ファイルとしてダウンロード (使用する PC が再生できる形式)

教材DVD

PC に教材フォルダごとコピーし、icard.exe を起動します。



※インストール不要です。DVD から直接起動もできます。

DVD

教室

PC とモニタを HDMI で接続します。

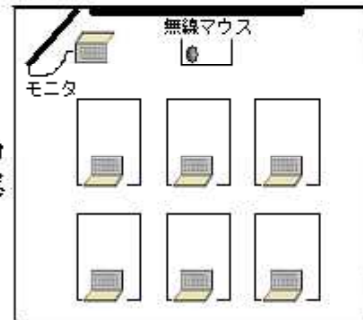
※モニタ画面は PC サイズに設定します。
※接続によって音が出なくなったときは、icard の起動後に PC 側の HDMI コードを外して画面が消えて再び表示されてから HDMI コードを接続します。
※無線マウスを使うことで、広い視野のまま操作ができます。



授業

※複数の PC をネットワーク接続すると、icard の編集、書き込みを他の PC に提案するなど、情報の共有が行え、協働学習に便利です。

教室



学習活動

教材化

教材作成

icard を起動して、指導計画に合わせて使いたい素材を配置します。

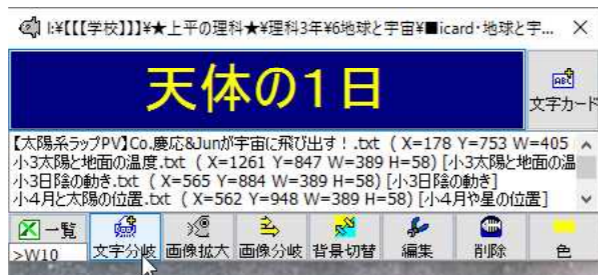
- ①教材フォルダをつくり、②教材フォルダに icard を入れて起動します。
※シミュレーションを使うときは MWEX フォルダも入れます。(マイクロワールド EX)



- ③クジラで、最初の画面の背景を素材から読み込みます。
※背景を右クリックして編集から「ペイント」を起動し文字・画像を描け、本格的な表紙に仕上げることが可能です。

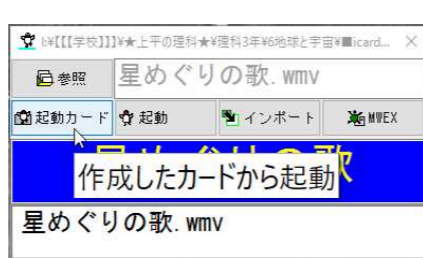
- ④マンボウで文字分岐をつくり、

※作った分岐カードを左クリックするとフォルダが作成されます。



- ⑤イフトビペンギンで提示する動画、画像、シミュレーションを指定します。

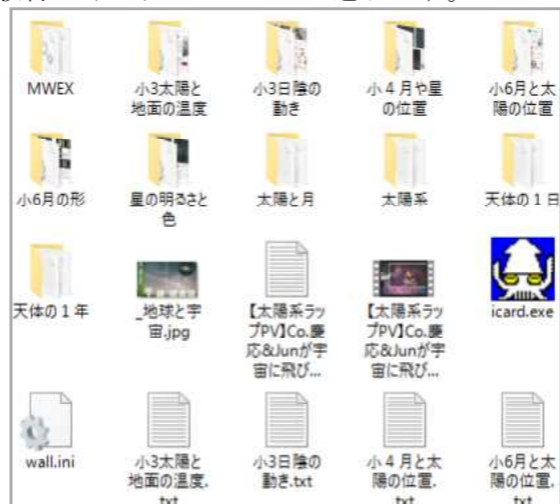
※指定したファイルは、教材フォルダにコピーされます。



完成

運用

教材フォルダごと DVD に送ります。



★ウイルスチェックを行います。 ※約 4.3 ギガ以内なら DVD にコピーできます

だからicard

- ①これまでの授業の知見を生かし洗練された icard の機能によって、教材作成時間が短く、毎回の授業までに教材制作が行える。
- ②カードの移動や画像、動画の上に線画で目のつけどころを示せるなど、学習指導操作が行える。
- ③構造化された教材記述ができ、それぞれの授業で画面を見ながら、必要な教材を必要だけ利用できる。
- ④教材の構造化によって、フォルダごとに教材・素材が管理されていて、教材の運用・管理が容易。

学習指導操作



- ★カードのリンクから、動画、画像、シミュレーションなど、学習資料を提示します。
- ★画像の上を右クリックし線画とするか、イカ墨から線画にして、学習の目のつけどころを示します。
- ★動画の上に線画するとき、チンアナゴを右クリックし icard を退避させ、チョウチンアンコウの上にマウスカーソルを乗せると線画モードになります。
- ★背景、カードを編集、新規作成して、「保存」すると、ネットワーク上でつながった icard の画面に提案されます。

終了

★著作権法 35 条の範囲で利用したファイルを削除します。